

1 調査の目的

2030年完成を目標に名古屋鉄道株式会社と協働で整備を進める名鉄名古屋本線東岡崎駅北口駅ビルに、新たに整備予定の多目的広場及び南北自由通路について、隣接する駅前広場等その他の公共空間まで含むことも視野に入れて、民間事業者の資本やアイデアを活かした管理運営手法及び利活用の可能性について調査するため、サウンディング型市場調査を令和7年10月から同年12月まで実施しました。

以下のとおり、結果の概要をお知らせします。

2 サウンディング型市場調査への参加団体

21団体

3 サウンディング型市場調査の結果概要

(1) 東岡崎駅多目的広場等の管理及び運営・利活用の範囲について

- ・管理面については、駅内及び駅周辺の公共空間を一体的に管理することが可能との意見があった。
- ・運営・利活用面については、多目的広場、南北自由通路を中心に活用することが可能であるという意見が多かった。

(2) 東岡崎駅多目的広場等の運営・利活用のイメージについて

サウンディング先の各事業者から、以下のような運営・利活用イメージの提示があった。

- ・地域の大学・高校や研究機関、学生を巻き込んだイベント企画やコミュニティ運営
- ・近隣商業施設や鉄道事業者と連携したイベント企画や施設運営
- ・オフィスビルも含む駅ビル全体のマネジメントや地域住民及び駅利用者を対象にしたコミュニケーションを重視した空間のデザイン
- ・飲食や物販事業等を展開しながら、エリアマネジメントを得意とする団体と組み、地域と連携したイベント企画・コミュニティ運営の実施
- ・暮らしの相談窓口や自社コンテンツを活かしたワークショップの開催

等

(3) 東岡崎駅多目的広場等の管理及び運営・利活用事業における事業実施体制・チーム構成について

- ・複数の事業者・団体で構成される共同企業体を想定する事業者が多かった。
- ・一部、一社のみで実施を想定する事業者もあった。

4 今後の対応について

本調査でいただいた内容を参考に、東岡崎駅ならではの駅まち空間を作り上げていくため、制度・空間設計を実施していきます。

また、公募については、令和9～10年度の実施を予定しています。